

まちの現状と問題点

日本には、まだ多くの待機児童がいること。
私が住んでいる兵庫県にも減少しているものの、令和2年度は1553人の待機児童がいるという資料が出ている。（姫路は122名）

先生も先生を志望している人も減少している。

世界には、学校に行くために、危険な通学路を毎日通っている子供たちがいることをテレビで知った。



まちの未来の姿

SDGs【 4. 8 】

待機児童がいなくなり、みんなが平等に教育を受けることができる。

大勢の先生を必要とせず、少数の教師で活動をしていくことができる。

教師への関心が高まり、教師の質を上げることができる。

世界のどこに住んでいても安全に授業が受けられる。

思い描く未来に向けてのプロジェクトアイデア

プロジェクト名【 どこでも授業 】

トラックの中を教室にして、どこでも移動可能にする。用意するものは、黒板、椅子、机、トラック、ガソリンなどで済む。日本での活動場所は、トラックを科学館や博物館などにとめて、そこでしか受けられない特別な授業を受けることができるようにする。トラック一台につき中には6人程度の生徒で受けるようにして、生徒がそれよりも多い場合は、トラックの外で授業を受けることもできるようにする。

トラックには、トラック運転手、教師、教師志望者を乗せる。教師志望者には、このトラックと一緒に乗ってもらうことで、より教えることの大切さや、楽しさを感じてもらえるようにする。また、学校を作る費用や、大勢の先生を必要としないので、低コストでできる。新型コロナウイルスに対する感染予防も、乗る人にマスクもしくはフェイスシールドをしてもらい、人との間をアクリル板で仕切るようにしたり、車の中を換気するなどして十分に対策を行う。費用は、一人百円にする。このプロジェクトに協賛金を出してくれた企業の広告をトラックにつけるようにする。活動範囲は、姫路から全国、いずれは世界へ進出し、学校に通うのが困難な場所に住んでいる子供たちにも手軽に通える場所に移動し、よりたくさんの子供たちに教育を受けさせることができるようにする。

プロジェクトを広げるために必要だと思う協働先（企業、団体、学校、自治体etc.）と協働方法

トラック会社、大型トラックを借りる。
教育学科の生徒、一緒に乗っていろんな経験をしてもらう。
先生、授業をしてもらう。